

## 米兵の女性暴行に抗議し、米軍基地の即時撤退、 日米安保条約の破棄を求める

10月16日、沖縄米海兵隊員2名による、日本人女性に対する暴行事件が発生した。

女性を集団で暴行する卑劣な犯罪行為は断じて許せないものである。

沖縄では、米海兵隊員による女性への暴行事件は後を絶たないばかりか、この間、多くの米国軍人や軍属が日本で様々な犯罪を起こしてきている。

独立した国の中を他国の軍人が我がもの顔で歩き、さらには暴行、窃盗、殺人など多くの犯罪を行い、なかには公務中を理由に日本の法律で裁けず、そのまま逃げ帰ることもおきている。

今回の暴行を行った米海兵隊員は、テキサス所属で暴行事件を起こしたその日には、帰国する予定であり、そのまま逃げてしまおうとする卑劣極まりないものである。

今回の事件で、野田首相や森本防衛大臣は「あつてはならないことだ」と言っているものの、この間、事件が起きるたびに歴代の首相から同様の発言が繰り返し行われているが、米兵による犯罪が後を絶たずに今日まできている。

日本の米軍基地の70%以上が存在する沖縄県では、米海兵隊員などによる女性への暴行事件をはじめとして多くの犯罪が繰り返され、県民が安心して暮らせる状況にはなっていない。

また、墜落を繰り返す欠陥機のオスプレイの配備に対しては、沖縄県民の多くが反対する中で強行してきている。

繰り返される犯罪やオスプレイの強行配備も、日米地位協定や安保条約による米軍基地が存在することから発生している。

私たち国鉄労働組合東海本部は、女性への暴行事件に強く抗議をするとともに、日米安保条約（日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約）の破棄と米軍基地の即時撤去・撤退を求めるものである。

2012年10月19日  
国鉄労働組合東海本部